



平成 29 年 10 月 13 日
文教大学付属小学校

研究主題 「学ぶことを楽しむ！」

～文教大学付属小学校型 アクティブラーニング

学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～

今年度第四回の校内研究を行った。今年度研究主題である「学ぶことを楽しむ！～文教大学付属小学校型アクティブラーニング 学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業～」について研究を重ねてきた。

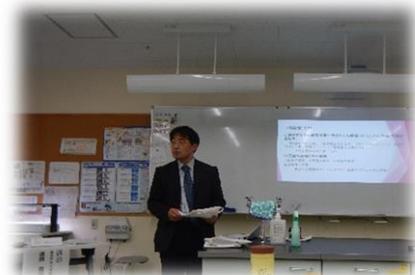
第四回目は10月2日に4年生の国語科の研究授業を行った。4年担任の田中 宏一教諭と谷島 かなえ教諭がそれぞれのクラスで『アップとルーズで伝える』を行った。

4年1組担任 田中教諭は、「筆者の分かりやすく伝えるための説明のしかたや、工夫についてかんがえよう。」（全8時間の本時7時間目）をめあてに授業を展開した。児童は、筆者の説明のよさを書き出したワークシートをもとに店主（班の説明役）と旅人（聞き役）に分かれ意見交換をした。



4年2組担任 谷島教諭は、「筆者の説明のしかたの工夫をみつけよう」（全8時間目の本時2時間目）をめあてに、本文の写真なしのワークシートを利用して、写真と文章の対応から説明の工夫を考えさせる授業を展開した。

研究協議会では、「共感・啓発」「課題・疑問」「教師」「児童」の4要素に沿って良かった点と改善すべき点を付箋に記載しグループごとにまとめ成果と課題の発表を行った。続いて、講師の東京学芸大学付属世田谷小学校 西川 義浩先生から指導・講評をいただいた。西川先生は、新学習指導要領とからめながら「自ら問い続ける子どもを育てる授業」についてお話をしてくださった。児童の学びを深化させるためには、「学習材との出会い」「友達との対話」「学びの更新」「自分への問いかけ」の4要素が螺旋状に展開される必要がある。そして、そのためには、児童の学びや疑問が学習のきっかけになるような授業デザインを教師がする必要があるということが分かった。また、学習材の教材性を見極め、それをどのように児童の目的意識に組み込んでゆくかということの大切さも改めて学ぶことができた。



今回、西川先生からご教授いただき「自ら問い続ける児童」について全教員が改めて考え認識することができた。今日の学びを日々の授業にいかせるよう、今後も研究を重ねていきたい。